

堀川まちづくり構想

【概要版】

～“うるおいと活気の都市軸・堀川”を再び～

堀川 ^{つながる} × ひと ^{つながる} × まち



堀川のイメージキャラクター
「ホリゴン」

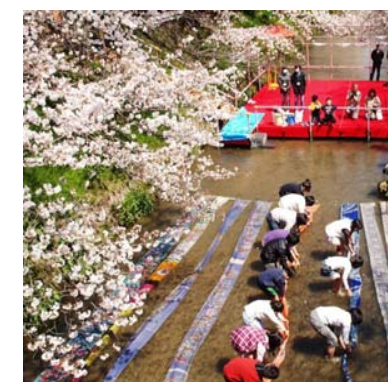
堀川まちづくり構想

【概要版】

～“うるおいと活気の都市軸・堀川”を再び～

堀川 ^{つながる} × ひと ^{つながる} × まち

名古屋市 緑政土木局 河川部 河川計画課
〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話番号：052-972-2891（堀川ダイヤル）
FAX：052-972-4193
電子メール：a2881@ryokuseidoboku.city.nagoya.lg.jp



平成24年10月
名古屋市

堀川まちづくり構想とは

これまで、堀川は、「堀川総合整備構想」や「堀川圏域河川整備計画」などに掲げた方針に基づき、計画的に整備を進めてきました。

本構想は、名古屋城築城に合わせて開削され、以来 400 年間にわたり名古屋の歴史とともに歩んだ堀川と、その周辺の歴史・文化資源、まちづくり、市民団体の活動など、堀川をとりまく様々な資産を「民」「産」「学」「官」の協働によって“掛け合わせ”、“つなげる”ことで、堀川と沿川の魅力とが融合し、だれもが主役となって、“**名古屋の母なる川**”堀川に**にぎわい**を創出し、その魅力を発信するための指針となるものです。

堀川まちづくり構想の構成

1 章 はじめに

堀川や川を活かしたまちづくりをとりまく動向など、本構想策定にあたっての背景を整理するとともに、構想の位置づけや概要を示します。

2章 堀川の歴史と現状

堀川の歴史やこれまでの取り組みの動向を整理し、今後に向けたまちづくりの課題を示します。

3章 構想の理念

堀川まちづくりがめざす基本理念を掲げ、基本理念の実現に向けての視点を示します。

4章 堀川まちづくりの指針

堀川まちづくりのテーマを設定し、それを進めていくための指針を設定して民・産・学・官の連携により取り組むまちづくりの方向性と具体的な取組例やアイデアを示します。

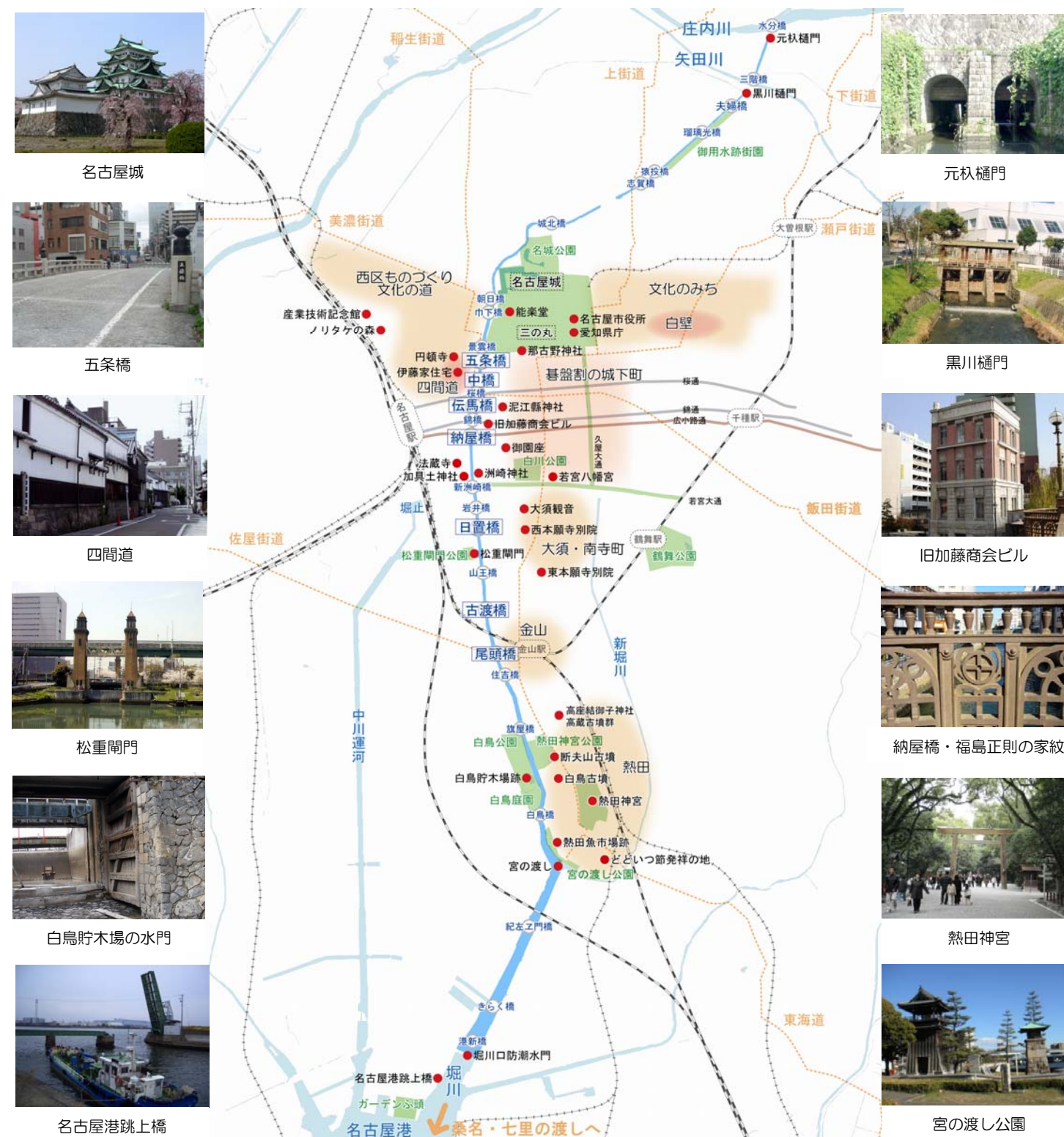
5章 実現に向けて

構想の実現に向けて、パートナーシップによるまちづくりを推進するための考え方や方策などを示します。

堀川は、慶長 15 年（1610 年）名古屋城の築城と時を同じくして福島正則により開削されたと伝えられています。当時は、名古屋城西の中下と熱田宮の渡しを結び延長約 6 キロの川でした。その後、上流部（黒川）の開削や下流部での新田開発などが進み、名古屋を南北に貫流する現在の堀川になりました。

堀川および周辺の歴史・文化資源

400 年間にわたって名古屋の歴史とともに歩んできた堀川とその周辺には、数多くの歴史・文化資源が点在しています。



堀川における取り組み

堀川では、河川整備や浄化の様々な施策が取り組まれています。また、市民活動や市民との協働によるまちづくり活動が行われています。

河川整備・浄化



北清水親水広場



納屋橋地区



白鳥地区



ヘドロのしゅんせつ



下水高度処理施設（名城水処理センター）



庄内川からの暫定導水

市民活動・
市民との協働

黒川友禅流し



堀川フラワーフェスティバル



堀川ウォーターマジックフェスティバル



堀川まつり



堀川1000人調査隊



堀川一斉清掃

堀川が抱える課題

このように、堀川沿川には歴史・文化を伝える資源が数多く点在し、沿川空間の整備も進められています。また、それぞれの特徴を活かしたまちづくりも実践されており、活動する市民団体間の連携もはじまりつつあります。その一方、このような現状ならではの課題も生まれています。

堀川周辺に残る多くの歴史資源や文化を掘り起こし、それらを活かしたまちづくりを進めることが求められます。

これまでの河川整備の蓄積を活かし、河川及び沿川空間の有効活用を図っていくことが求められます。

堀川周辺のまちづくりと一体となった取り組みを展開し、堀川を軸としたにぎわいの創出が求められます。

持続可能なまちづくりを推進するため、堀川を中心に活動する市民団体間の連携を深めるとともに、民・産・学・官の多様な主体との連携によるまちづくりが求められます。

3 構想の理念

基本理念

「堀川力」に「ひと」と「まち」を“掛け合わせる”ことによってそれらが“つながり”、新たな魅力が生み出されます。堀川のあちこちで、様々な主体による堀川力向上の取り組みがなされて魅力が生み出され続け、堀川が活気とにぎわいに溢れた都市軸として輝き、市民の誇りとなることをめざしていきます。

“うるおいと活気の都市軸・堀川”を再び

堀川 × ひと × まち
つながる つながる

堀川力とは

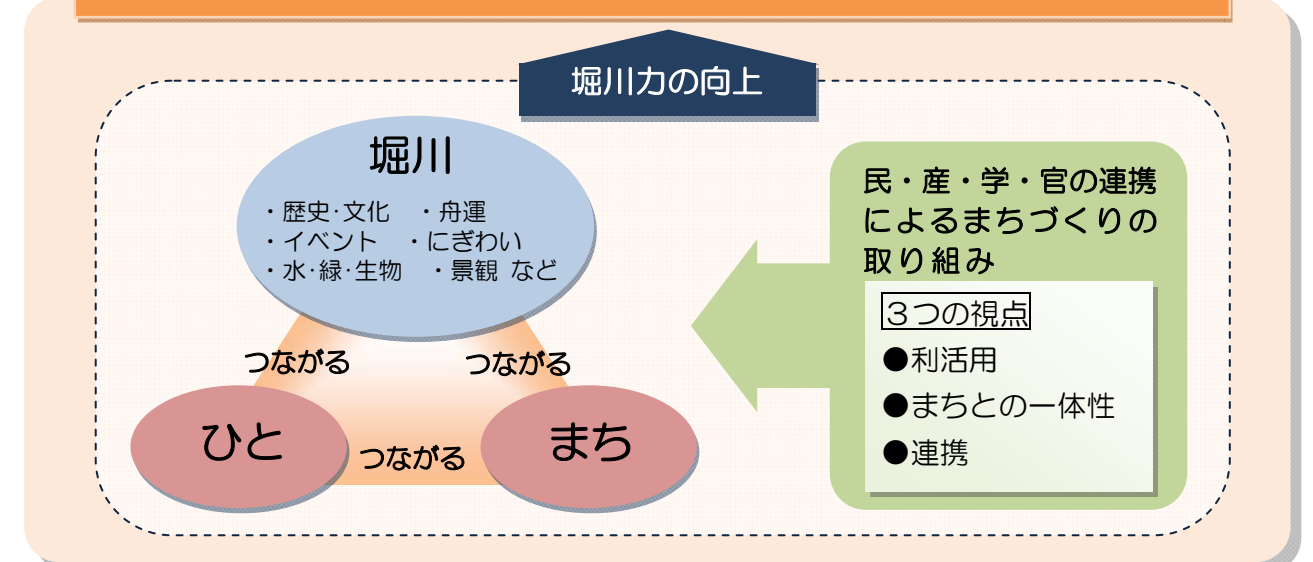
開削400年で培われてきた長い歴史や豊富な文化資源、また、水や緑の自然資源といった堀川がもつ魅力やポテンシャルを「堀川力」と定義します。

堀川力の向上に向けて

以下の3つの視点に基づいて「堀川」と「ひと」と「まち」とのつながりを深め、「堀川力」を一層向上させることで、基本理念の実現をめざします。

- ① 利 活 用 : 川の効果的な利活用
- ② まちとの一体性 : まちづくりと一体となった取り組み
- ③ 連 携 : 連携による推進体制の構築

基本理念 “うるおいと活気の都市軸・堀川”を再び



堀川まちづくりの6つのテーマ

市民の誇りとなる堀川の実現に向けた基本理念を踏まえ、「堀川力」をさらに高めていくための“6つのテーマ”を設定しました。

それぞれのテーマが関連しあうことで堀川の魅力が向上することから、テーマ間の横のつながりを意識しながら、まちづくりを推進していきます。



堀川まちづくりの指針

堀川まちづくりを進めていくため、堀川力向上の具体的な取り組みの方向性と、民・産・学・官の共通目標を示すまちづくりの指針を設定しました。

この指針は、各主体がそれぞれの長所や得意分野を活かして連携・協力しながらテーマの実現に取り組んでいくためのよりどころとなるもので、市民団体等との協働により、6つのテーマに対し16の指針を設定しました。

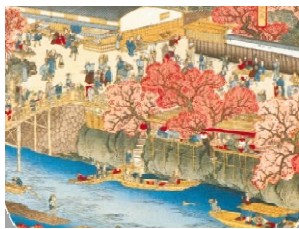
テーマ1

歴史・文化を活かす

堀川周辺に残る多くの歴史資源や長きにわたって蓄積・継承されてきた文化を掘り起こし、それらを効果的に活かしたまちづくりを進めます。



旧加藤商会ビル



名古屋名所図説
「堀川花盛」

- 指針 1 堀川の歴史を伝える
- 指針 2 堀川と周辺のまちの歴史をつなぐ
- 指針 3 歴史的な名所や祭を再生・活用する

テーマ2

堀川を楽しむ場をつくる

広場やプロムナードなど親水性の高い空間整備を行うとともに、沿川建物の堀川との関係性を強化することにより、堀川を見て、感じて、楽しむことができる場づくりを進めます。



堀川ポートフェスティバル



川沿いのレストラン
(シンガポール・クラークキー)

- 指針 4 水に親しむ場や機会をつくる
- 指針 5 沿川の土地・建物を川面に向ける

テーマ3

祭と交流の舞台をつくる

堀川やその沿川地域を舞台とした多様な祭や交流の機会を創出することにより、多くの市民や観光客が集い、ふれあい、活動し、にぎわいを生み出すまちづくりを進めます。



堀川フラワーフェスティバル



名城・堀川まきわら祭り

- 指針 6 堀川を軸とした交流拠点を形成する
- 指針 7 堀川の歴史や特色を活かしたイベントを開催する

テーマ4

船を活用する

堀川の各拠点間や他地域とを結ぶ航路を確立するとともに、船を利用しやすい環境整備を図り、船を積極的に活用したまちづくりを進めます。



納屋橋の船着き場



レストラン・カフェ船の例
(オランダ・アムステルダム運河)

- 指針 8 舟運による交通軸を形成する
- 指針 9 舟運のための環境を整える
- 指針 10 船の利用機会をふやす

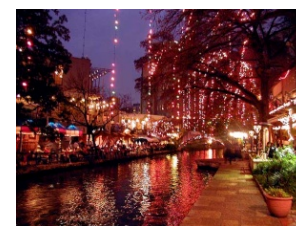
テーマ5

堀川を活かした景観をつくる

名古屋の代表的な川として、市民が誇りと愛着をもち、観光客にも魅力を感じてもらえるよう、堀川の歴史・文化や自然環境を活かした魅力ある景観づくりを進めます。



黒川地区の桜並木



建物や樹木のライトアップの例
(サンアントニオ・リバーウォーク)

- 指針 11 川沿いの風景を演出する
- 指針 12 景観形成のルールをつくる

テーマ6

水・緑・生物を育む

堀川の水辺と沿岸の花や樹木、そこに生息する生物などが共生し、市民や観光客にうるおいややすらぎを与える、環境にやさしいまちづくりを進めます。



黒川生物観察会



緑の樹木の連続化の例
(オランダ・アムステルダム運河)

- 指針 13 水と緑のネットワークをつくる
- 指針 14 水と水辺をきれいにする
- 指針 15 多様な生物をはぐくむ
- 指針 16 環境学習を实践する

堀川まちづくりの指針の実現には、事業展開の可能性の高いエリアについて、その特徴に応じた取り組みを進めることが効果的です。そこで、有効な資源が数多く存在し、事業展開の可能性が高い7つのエリアを「拠点エリア」とし、それぞれの特色を踏まえたまちづくりの方向性を将来イメージとして示します。

※本イラストは、特定の場所での実際の整備内容を示したのではなく、そのエリアで実現が期待される取り組み・アイデアを1枚の絵にまとめたものです。

四間道エリア

四間道の町並みに繋がる堀川舟運と荷揚げなど、往時の堀川の姿を伝える

- 周辺のまちづくり活動と堀川とのつながりをつくる
- 歴史資源を活かしたまちづくり活動を推進する



納屋橋エリア

近代の目抜き通り広小路のにぎわいと近代名古屋の息吹を伝える

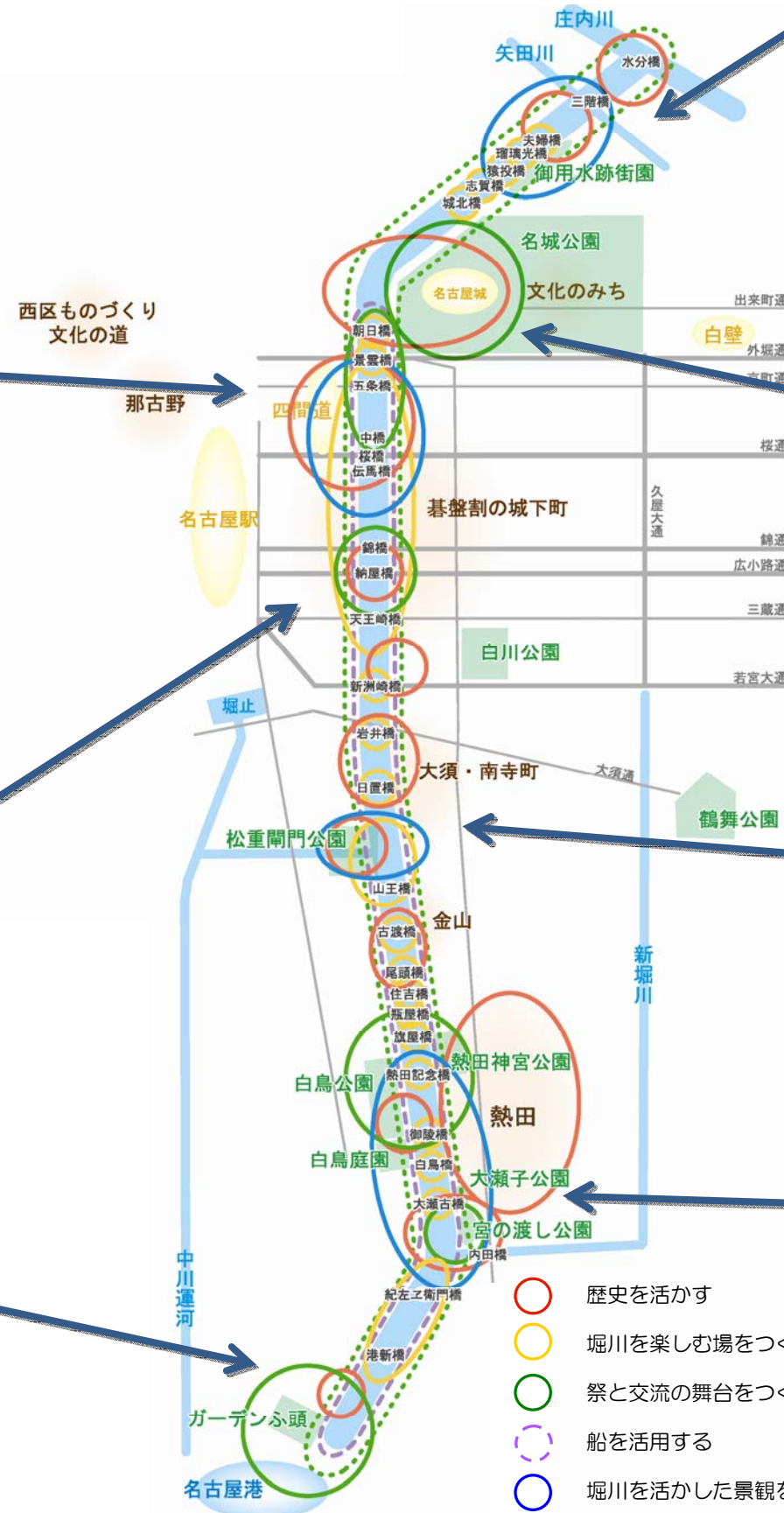
- 多くの市民や観光客が訪れるよう、魅力的なイベントが開催される場とする
- 沿川建物が川面に顔を向け、市民や観光客が堀川を楽しめる場をつくる



堀川口エリア

近代名古屋の海の玄関と産業発展の礎となった港の歴史を伝える

- 都心と連携した観光拠点となるよう、堀川へつながる舟運を活かす
- ガーデンふ頭のにぎわいとつながりをつくる



- 歴史を活かす
- 堀川を楽しむ場をつくる
- 祭と交流の舞台をつくる
- 船を活用する
- 堀川を活かした景観をつくる
- 水・緑・生物を育む

黒川エリア

川・水を身近に感じふれあえる環境を伝える

- 生物観察会など現在行われている活動を継続しつつ、周辺のまちとのつながりをつくる
- 桜並木を守りつつ、より水に親しめる空間をつくる



名古屋城エリア

名古屋の象徴、名古屋城とそれを支えた堀川の歴史を伝える

- 名古屋城や名城公園と連携させたにぎわいづくりを行う
- 名古屋城から沿川観光地への舟運の利用促進を図る



日置・松重エリア

舟遊び、桜の名所など「堀川花盛」に描かれた庶民文化とにぎわいの歴史を伝える

- 松重閘門や日置橋の桜並木など歴史を活かした堀川まちづくりの機運を高める



熱田エリア

堀川誕生の起点、東海道宮の宿、熱田湊の歴史を伝える

- 熱田湊や宮の宿などの歴史資産を活かした堀川まちづくりの機運を高める
- 国際会議場や熱田神宮などの集客施設との連携を深める



パートナーシップによるまちづくり

堀川では、これまでも、浄化・美化活動や歴史を活かした取り組み、祭りやイベントの開催など、活発なまちづくり活動が実践されており、市民活動の水準は既に高いレベルにあります。

今後、パートナーシップによるまちづくりを進め、市民と行政がまちづくりにおける「目的・目標」を共有しながら、お互いの持つ強みを活かし、補い合うことができる仕組みを構築し、より密接に連携することで課題解決を図り、まちづくりを進めていきます。

■ まちづくり推進上の課題

「人材」の課題

- ◆ まちづくり活動の担い手の不足・高齢化
- ◆ 活動の中心となる人材・リーダーの育成が困難など

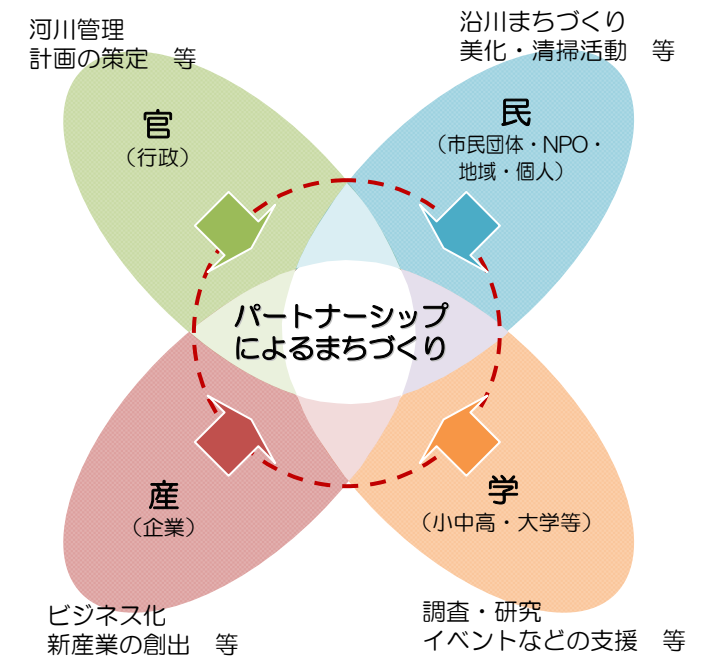
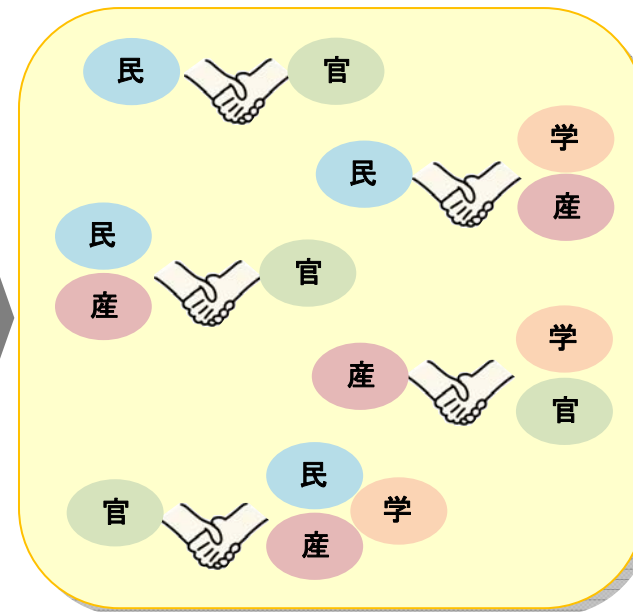
「資金」の課題

- ◆ まちづくり活動のベースとなる資金の確保
- ◆ 事業継続が可能となる収益の確保など

「連携」の課題

- ◆ 情報交換・共有の場の不足
- ◆ 主体間の行動力・意識などの違いなど

解決に向けた連携のイメージ



推進方策

「市民の誇りとなる堀川」を実現するため、堀川力の向上に向けて掲げた「利活用」「まちとの一体性」「連携」の3つの視点を踏まえ、「河川の利活用と人材育成等の支援」「まちづくりと一体となった取り組みの推進」「連携による推進体制の構築」などの方策により、パートナーシップによるまちづくりを推進します。

- 河川の利活用と人材育成等の支援
- まちづくりと一体となった取り組みの推進
- 連携による推進体制の構築

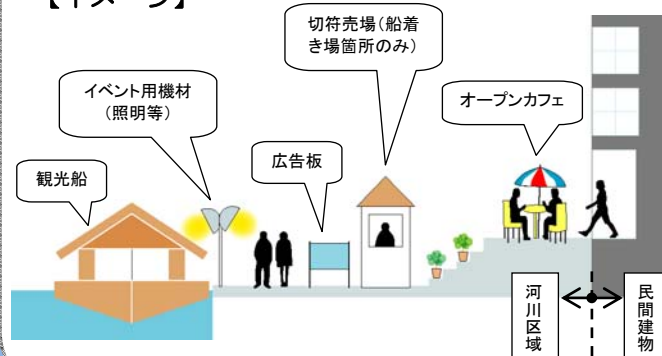
の推進方策の例を示します。

河川の利活用と人材育成等の支援

- 規制等の弾力的な運用による利活用の促進
- まちづくり人材育成等の仕組みづくり

地域活性化のための河川敷地の占用に関する規制緩和（例）

【イメージ】

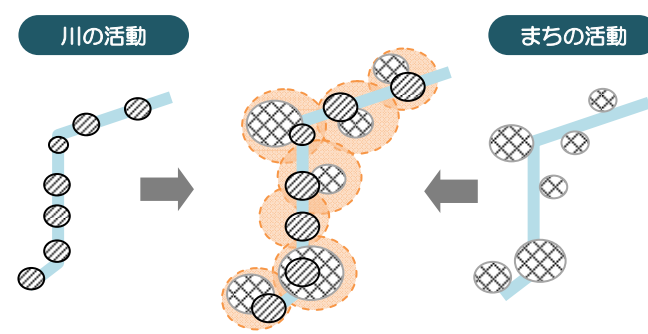


まちづくりと一体となった取り組みの推進

- 分野やテーマを横断する取り組みの推進
- エリア間の連携や周辺のまちと一体となった段階的なまちづくりを推進

川と周辺のまちが一体となったまちづくり（例）

【イメージ】



連携による推進体制の構築

- 民・産・学・官が、それぞれの得意分野、不得意分野を補完しあう体制を構築

なごやモデルの推進体制（例）

